

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)豊中市本町1丁目テナントビル	階数	地上4F、地下0F
建設地	大阪府豊中市本町1丁目	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	80人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,960時間/年(想定値)
建物用途	物販店、集会所、病院、等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年10月 予定	評価の実施日	2019年2月25日
敷地面積	1,088㎡	作成者	西川 学
建築面積	780㎡	確認日	2019年2月26日
延床面積	2,372㎡	確認者	垣内 芳典

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.7** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質 Qのスコア = 2.6**

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.8

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.7

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.2

**LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.9**

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.1

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.6

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	開口部は遮音性に配慮し、T-2を使用している。内装材は耐用年数高い材料を使用している。	その他 特になし。
<b>Q1 室内環境</b>	開口部は遮音性に配慮し、T-2を使用している。全館禁煙となっている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 特になし。
<b>LR1 エネルギー</b>	特になし。	<b>LR3 敷地外環境</b> 特になし。
<b>Q2 サービス性能</b>	内装仕上げ材は耐用年数高い材料を使用している。	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	LGSを使用し躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】		建物名称	(仮称)豊中市本町1丁目テナントビル新築計画						
		建設地	豊中市本町1丁目						
		用途/区分	物販店 病院 集会所 学校(大学等)						
【評価結果】		CASBEE 総合評価					B-		
①	CO2削減						3		
②	みどり・ヒート アイランド対策						2		
③	建物の断熱性						5		
④	エネルギー削減						3		
⑤	自然エネルギー直接利用						—		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
エネルギー消費量の報告						報告しない			
【評価項目】									
項目		評価内容				スコア	評価		
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.3	3		
②	みどり・ヒートアイランド対策								
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				2.0	2		
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価				2.0			
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価				2.0			
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0	5		
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				2.5	3		
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—		
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない		
その他									
		技術の名称	考慮事項						
先進的技術の導入									
特に配慮した事項									